
窃盗罪

悲劇のM

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

窃盗罪

【著者名】

ZETE

悲劇のM

【あらすじ】

とある港。デジを踏んでしまった男の話

深夜の港に一人の男がいた。男はひどくそわそわしていた。麻薬の取引を行うのだ。アタッシュケースには3千万の現金。腕時計を覗く。そろそろ相手が来てもいい時間帯だ。

丁度、向こうから黒い車が現れた。ライトの光で見えるナンバーは11-97。教えられたナンバーと同じ。男は停車した車に駆け入る。中の者は若い男。開かれた大型のアタッシュケースの中には大量の麻薬がギッシリ詰められていた。若者が問う。

「ピーナッツはいくつ持っている？」

「三千個だ」

これが合言葉。若者は額き、金を渡すよう指示した。言われるがままに男は現金3千万円の入ったアタッシュケースを車の窓越しに手渡す。

「さあ、約束の物を渡してもらおうか」

「あばよ！！」

なんと、若者は麻薬を渡さずに車を急発進させた。男は追いかけたが、車の速度に人間が勝てるはずもなく、車はどんどん遠ざかっていった。

「くそつ、騙された！！」

地団駄を踏む男。月末には事務所に借金取りが取立てに来るので、あの麻薬を転売して金を作らないとマズいのだ。

男は携帯を取り出し電話をかけた。

『はい、こちら』

向こうの返事を待たずして、男は乱暴な口調で言った。

「もしもし警察か、窃盗の被害に遭った」

『落ち着いて下さい、何を盗られたんですか？』

『3千万円の現金だ』

『なんでそんな大それたものを』

「麻薬の取引なんだ。金だけ持つていきやがった
男が逮捕されたのはいつまでもない。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6709e/>

窃盗罪

2011年1月15日14時39分発行